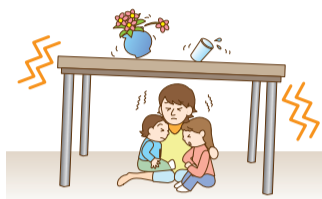




地震対策

▶ グラツときたら…

自分と家族の身の安全を図る



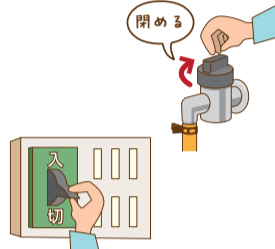
火の始末、靴やスリッパを履く



ケガをしていたら応急処置



ガスを止めブレーカーを落とす



ご近所に声をかけ合い避難(戸締り、非常持出袋)



▶ 安全確保行動 (シェイクアウト)



(日本シェイクアウト提唱会議: 提供)

シェイクアウトとは、「**まず低く、頭を守り、動かない**」などの安全確保行動です。地震の揺れから身を守るため日ごろから訓練をしておきましょう。

▶ 家の中の安全対策

1 家の中に安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



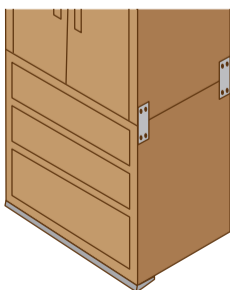
2 できるだけ寝室には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると家具などが倒れて危険です。



3 家具の転倒を防ぐ

家具と壁の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全にする。



4 安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

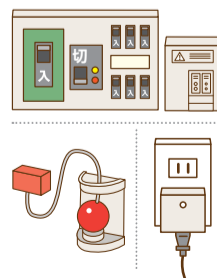
玄関にいろいろなものを置くと、いざという時に出入口をふさいでしまうことがあります。出入口までの通路にも倒れやすいものを置かないようにする。



5 電気火災の発生を防ぐ

大地震が発生した際には、多数の火災が発生し、多くの人が命や財産を失っています。地震火災の原因の多くは電気に関連しており、電気機器(電気ストーブ、電気コンロ等)の転倒による出火や、電気復旧時における通電火災(破損した電気コードのショートによる出火等)があります。このような電気火災を防ぐため、※感震ブレーカー等を設置する。

※感震ブレーカーとは、あらかじめ設定した震度以上の地震が発生した場合に、自動的に電気の供給を遮断する装置で、電気火災の防止に効果的です。



▶ 避難するときの行動イメージ

地震発生後

避難開始

自宅

● 建物倒壊・火災の拡大等により危険になったとき

● ^{いっとき}一時避難場所や広域避難場所など、近くの安全な場所に避難 (P12)

↓ 自宅で生活できないとき

● 一次避難所 (指定避難所) に避難する

※避難場所や避難所の名称は、市町村ごとに異なります。

● 危険がなくなったとき

● 避難所で生活する必要がなくなったとき

▶ 家具の転倒、落下を防ぐポイント

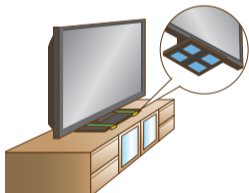
タンス・本棚

金具や固定器具などで固定する。二段重ねの場合にはつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



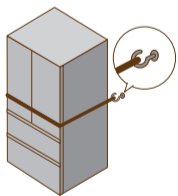
テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く (家具の上はさける)。免震ゴムの設置も有効です。



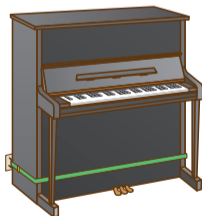
冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金を巻いて、金具で固定する。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取り付け金具などで固定する。足にはすべり止めをつける。



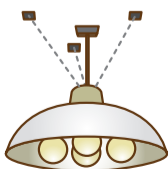
食器棚

金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下に、軽い食器は上の方に置く。扉が開かないように留め金具をつける。



照明

チェーンと金具を使って数箇所留める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで留めておく。



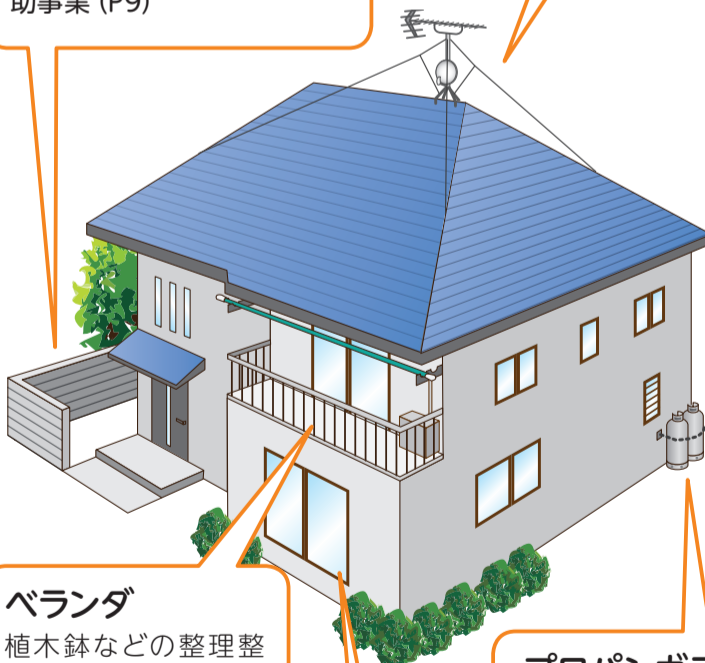
▶ 家の周囲の安全対策

ブロック塀・門柱

土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。危険ブロック塀等耐震化補助事業 (P9)

屋根

アンテナや、屋根瓦を補強しておく。(屋根の軽量化など)



ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

窓ガラス

飛散防止フィルムを貼る。